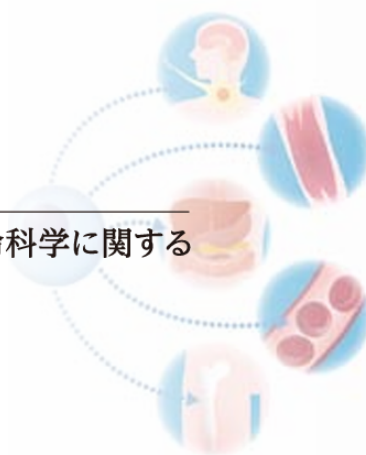


「活かす」領域

医学、薬学に最先端の獣医学も加わることで、生命科学に関する研究者集団の研究成果を創薬に活かします



領域長
応用生物科学部
准教授 高島 康弘

「活かす領域」の役割は、「つくる領域」と「ひも解く領域」で明らかになったことを、どう社会に還元するかを考え、担っていくことです。また、生命現象のメカニズムの解明方針、治療や予防の道筋を提案することも重要な役割になるでしょう。

その背景となるのが、医学と獣医学の研究・教育組織（医学部

と応用生物科学部・共同獣医学科）、さらに動物病院も同じキャンパスにある本学の特性です。

本学には、生命科学の基礎研究を中心に、実に多くの素晴らしいシーズがあり、実用性を考えて社会とつなげるアウトプットの仕組みが「活かす領域」です。

「活かす領域」のシーズ

人獣共通感染症グループ

感染制御の高精度化と規格統一

医療関連感染対策の地域連携ネットワーク強化と抗菌薬適正使用(Antimicrobial Stewardship Program:ASP)の成果評価
地域医療医学センター 教授 村上 啓雄

狂犬病ウイルスを遺伝子操作し、活用する

狂犬病の制圧・撲滅をめざして
応用生物科学部 准教授 伊藤 直人

食肉家畜に由来する人獣共通感染症の制圧

食肉家畜に寄生する原虫感染症を中心に
応用生物科学部 准教授 高島 康弘

再生医療グループ

Muse細胞を用いた心筋再生による 心筋梗塞後心不全の治療法開発

医学系研究科 教授 湊口 信也

組織の幹細胞の制御機構を解明するための研究

組織再生医療への応用へ向けて
医学系研究科 教授 大沢 匡毅

HLAハプロタイプホモ嚢髄細胞ストック

日本発の再生医療細胞資源開発プロジェクト
医学系研究科 准教授 手塚 健一

腫瘍・難治性疾患グループ

がん治療・研究の最前線

新たな標準治療の確立に向けて
医学系研究科 教授 吉田 和弘

マウスとヒトの間を埋める

犬・猫の自然発生腫瘍を利用した新規治療法の開発
応用生物科学部 教授 森 崇

伴侶動物とヒトの難治性がんの制圧をめざして

犬の血管肉腫の病理学的研究
応用生物科学部 准教授 酒井 洋樹

イヌALSモデルを用いた橋渡し研究

2つの神経難病の克服を目指して
応用生物科学部 准教授 神志那 弘明